

「点字版みんなの防災すごろく」 製作プロジェクト

「誰一人取り残さない」という思いからスタートし、
様々な社会課題認識のツールに発展！



NPO法人六星 ウイズ蛭塚

所在地：浜松市中区
ホームページアドレス
<http://npo6seiwith.sakura.ne.jp>
メール with-
shijimi2008@ab.auone-net.jp
TEL：053-489-5560
点訳作業、点字シール貼り

NPO

NPO法人みらいネット浜松

所在地：浜松市西区
ホームページアドレス
<https://mirainet.hamazo.tv/>
TEL：053-570-8696
主催、企画・運営

NPO

静岡県健康福祉部障害者政策課

所在地：静岡市葵区
ホームページアドレス
<https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-310/index.html>
TEL：054-221-3599
資金を補助

行政

プロジェクト主催はみらいネット浜松。点字印刷は六星が運営する就労継続支援B型作業所が担当しました。資金面では2020年度静岡県合理的配慮理解促進事業費補助金を活用しました。

「みんなの防災すごろく」開発

住みよいまちづくりを目指し活動しているみらいネット浜松は、東日本大震災被災地視察を機に、防災活動に力を入れてきました。講演会等をする中で、子ども達への防災啓発が課題となりました。そこで楽しみながら体験を通じ防災を学ぶ「浜松防災すごろく」を製作しました。その後、どの地域でも使えるようリニューアルした「みんなの防災すごろく」を製作。学校や高齢者施設等で出前授業をおこない、県西部を中心に約80ヶ所/3,000人に防災の大切さを伝えました。

障がい者の就労継続支援事業所で点字印刷

代表の河原みち代さんは「視覚に障がいのある人達にも使えるようにしたい」と思い、中間支援組織である認定NPO法人浜松NPOネットワークセンターのイベントで顔見知りだった六星の斯波千秋さんに相談します。六星は、視覚に障がいのある人達を中心にすべての人達が生きやすい社会づくりを目指し活動するNPO法人です。就労継続支援B型作業所「ウイズ半田」と「ウイズ蛭塚」を運営し、点字印刷や点字を使った雑貨を製作・販売しています。六星は点字に使われる6つの点、ウイズは「with=一緒に」を表しています。河原さんと斯波さんは一緒に点字版防災すごろくを考案し、作成することになりました。点字シールの作成は、ウイズ蛭塚が行いました。B5サイズに二つ折りした亜鉛板に凸凹をひとつひとつ打刻し、打刻した亜鉛板の間に透明シールシートをはさんでプレスするという大変な作業です。作成したシールを切り、すごろく

の升目にあわせて貼れば完成です。ウイズ蛭塚総出で作業し、50部の「点字版みんなのすごろく」を製作しました。

誰にでもできるすごろくの完成

一方、静岡県は、障がいを理由とする差別の解消を目指し、静岡県合理的配慮理解促進事業として目的に合致する事業を支援しています。みらいネット浜松は、その支援事業の補助金を活用し資金を調達しました。

こうして完成した「点字版みんなの防災すごろく」を視覚特別支援学校で体験してもらおうと、「前半に防災グッズカードをもらいそれが後半に役立つので日頃の備えの大切さがわかった」「地震がおきたら1回休み。落ち着いて考えようってことだと思った」等、防災知識を学び、防災意識を高めることができました。

「点字版みんなの防災すごろく」が点字毎日新聞に掲載されると、全国の視覚に障がいのある人達から注文が来て「皆と同じようにできないことがあると（社会から）取り残されるように感じていたが、これならすごろくも楽しめます」などの声が届きました。

様々な社会課題認識ツールに発展

点字版すごろくを出前授業にもっていくと、点字に気づいた子が「これ何？」と聞いてきて、自然な形で視覚に障がいのある人達への理解につながりました。さらに、自分の目を大切に想いアウトメディア（メディアを使わない時間をもつ）につながる等ネット依存の課題認識にも役立つツールとなりました。

Point

NPO中間支援組織の活動による人のつながりが、協働事業に発展しました。「with（一緒に）」をコンセプトにしている斯波さんには、できない部分・足りないところは協働で一緒に！という意識が根付いていて、本協働事業につながりました。

これからの展望

今、矢印の部分にも点字シールを貼る等改良版を製作中です。コロナ禍で出前授業ができない状況が続いているので、教員や施設職員が自分で授業ができるように指導書を作成しています。また、コロナ終息後は県内全域で出前授業を行いたいと考えています。

